

柴山昌彦様  
文部科学相  
日本 東京都千代田区霞が関3丁目2-2

2019年7月11日

親愛なる柴山昌彦様

この手紙は、日本の子どもたちが電磁波過敏症や化学物質過敏症を発症した時に、学習し勉強するための安全で心配のない場所を提供するよう、あなたに促すために認められています。私は公衆衛生医でアルバニー大学公衆衛生校の元学部長です。参考までに私の履歴書を添付します。私の主な研究分野は、さまざまな環境因子への曝露で起きるヒトの疾患の研究です。私は電磁場の健康影響に関する問題にも関わってきました。

無線周波数電磁場は、携帯電話やその基地局、Wi-Fi や無線デバイスから発生します。電磁場 (EMFs) への曝露は、ヒトに対する重大な健康被害をもたらします。携帯電話やその基地局、Wi-Fi やあらゆる無線機器から発生する無線周波数電磁場が近年、急速に増え続けてきました。耳に携帯電話を当てて長期間使用することは、神経膠腫や膠芽腫のリスクを増やす、という非常に強力な科学的証拠があります。その他のガンを増やすことについても複数の科学的証拠があります。無線周波数電磁波への曝露は、男性の生殖能力にも有害な影響があります。

電磁波過敏症 (訳注: 略称は EHS) と呼ばれる症候群の新たに発生した流行があり、無線周波数電磁波への曝露に反応して頭痛や認識障害、極度の疲労や、そのほかの非特異的だが衰弱させる症状が起きる人がいます。それは本物の病気であり、精神状態に起因する病ではないことがはっきりしています。もっとも良い情報源はバイオイニシアティブ報告([www.bioinitiative.org](http://www.bioinitiative.org))であり、広範囲に文献をレビューしています。電磁波過敏症に苦しむ人々はしばしば化学物質にも敏感になり、その症候群は化学物質過敏症 (MCS) と呼ばれます。

EHS の治療は不明であり、その症状に苦しむ人たちのための唯一の解決策はできるかぎり曝露を減らすか避けることです。EHS に苦しむ人は明らかに無力になり、無線周波数電磁場への曝露が最小限になる (合理的な) 配慮を受けなくてはなりません。これは、子ども達が学びに行く学校で特に重要です。電磁波や化学物質のせいで具合が悪いなら、子ども達は学習することができません。そのような (合理的) 配慮は労働環境を含み、Wi-Fi ルーターや携帯電話基地局、携帯電話やそのほかの無線機器を使う人から離れなければいけませんし、多様な化学物質についても同様です。

敬具  
デビッド・O・カーペンター、医学博士  
アルバニー大学、環境衛生研究所代表

(訳: 環境ジャーナリスト、いのち環境ネットワーク代表、加藤やすこ、2019.7.13)